

「障がい者施策・安全で安心な三重のまちづくり・水道に関するアンケート」 実施報告書

障がい福祉課、暮らし・交通安全課、大気・水環境課が実施しました「障がい者施策・安全で安心な三重のまちづくり・水道に関するアンケート」について、693名の方からご回答をいただきました。

アンケート結果をとりまとめましたので、ご報告します。

アンケート概要

(1) アンケート実施期間

令和元年10月16日（水）～令和元年10月31日（木）

(2) アンケート回収状況

対象者数 1,071名

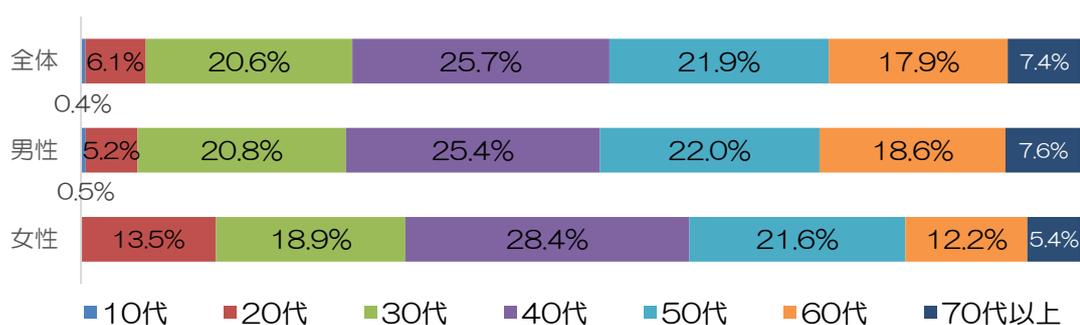
回答者数 693名

回答率 64.7%（※小数点第2位を四捨五入）

(3) 回答者属性

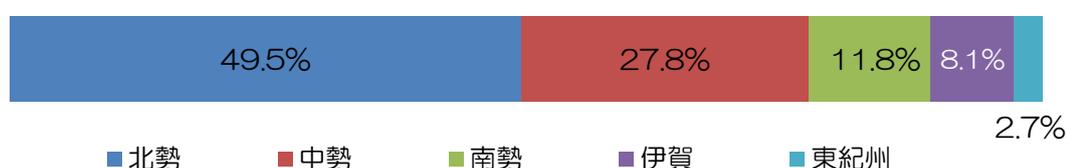
【性別・年代別】

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	総計
全体	3	42	143	178	152	124	51	693
男性	3	32	129	157	136	115	47	619
女性	0	10	14	21	16	9	4	74



【地域別】

	北勢	中勢	南勢	伊賀	東紀州	総計
全体	343	193	82	56	19	693



アンケート結果

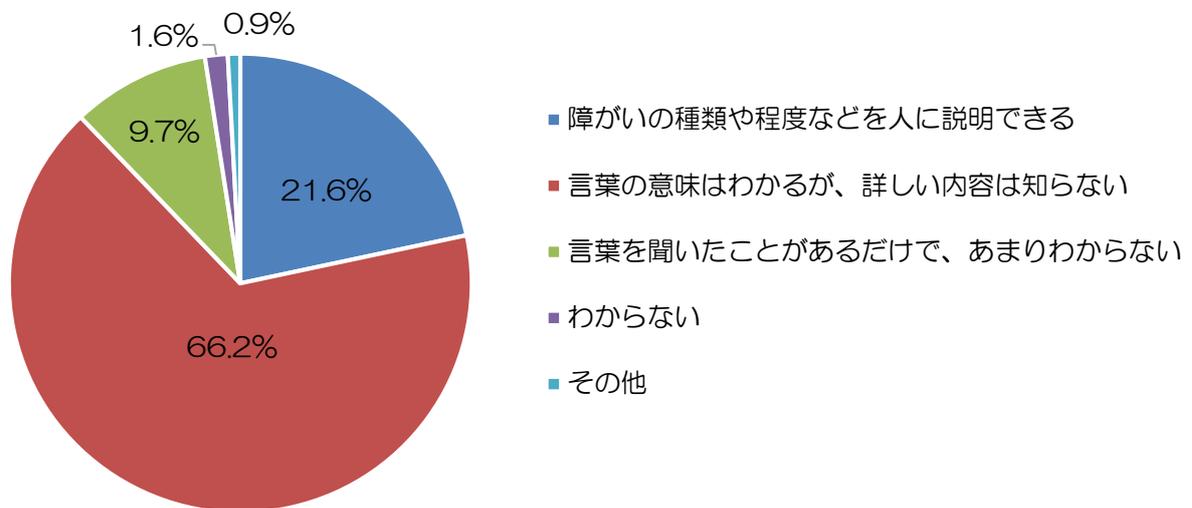
●「障がい者施策」についての回答結果（Q1～Q6）

子ども・福祉部障がい福祉課

Q1 障がいの理解について

あなたは、障がいについて、どの程度理解していますか。あてはまるものを1つ選んでください。

最も多い回答は「言葉の意味はわかるが、詳しい内容は知らない」で66.2%、次いで「障がいの種類や程度などを人に説明できる」が21.6%という結果でした。

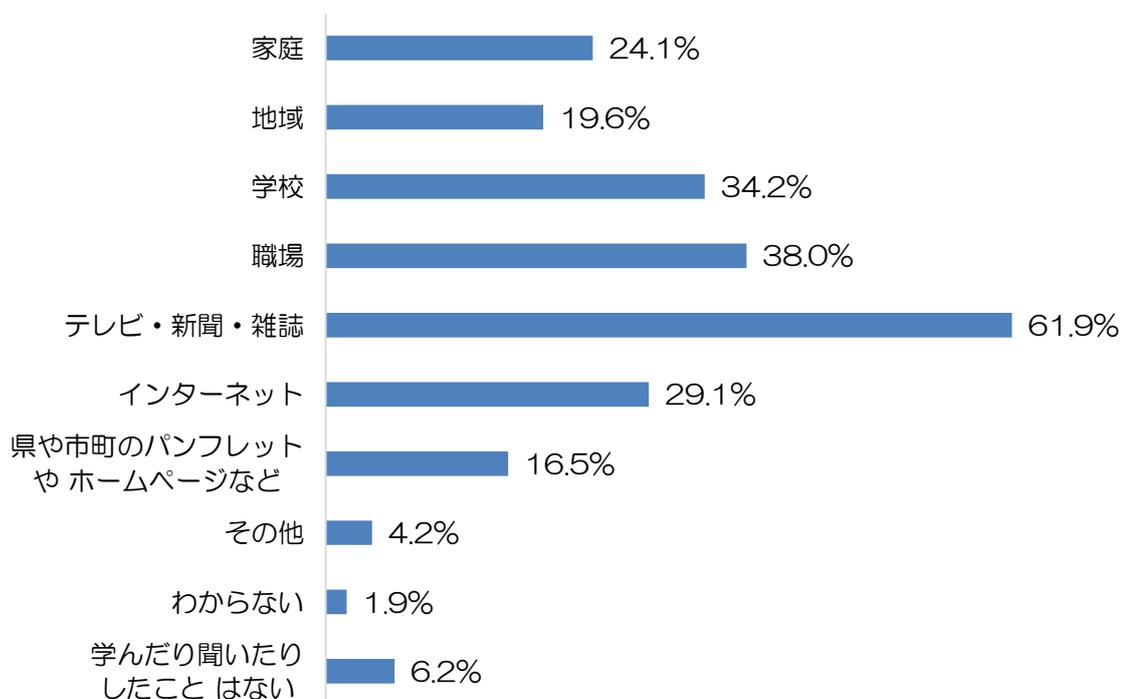


	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
障がいの種類や程度などを人に説明できる	150	2	10	38	42	33	17	8
言葉の意味はわかるが、詳しい内容は知らない	459	1	29	88	117	101	89	34
言葉を聞いたことがあるだけで、あまりわからない	67		3	14	12	14	16	8
わからない	11			1	5	4	1	
その他	6			2	2		1	1

Q2 障がいを知る機会について

あなたは、障がいや障がい者について、どこかで学んだり、聞いたりしたことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

最も多い回答は「テレビ・新聞・雑誌」(429)で、次いで「職場」(263)、「学校」(237)となっています。

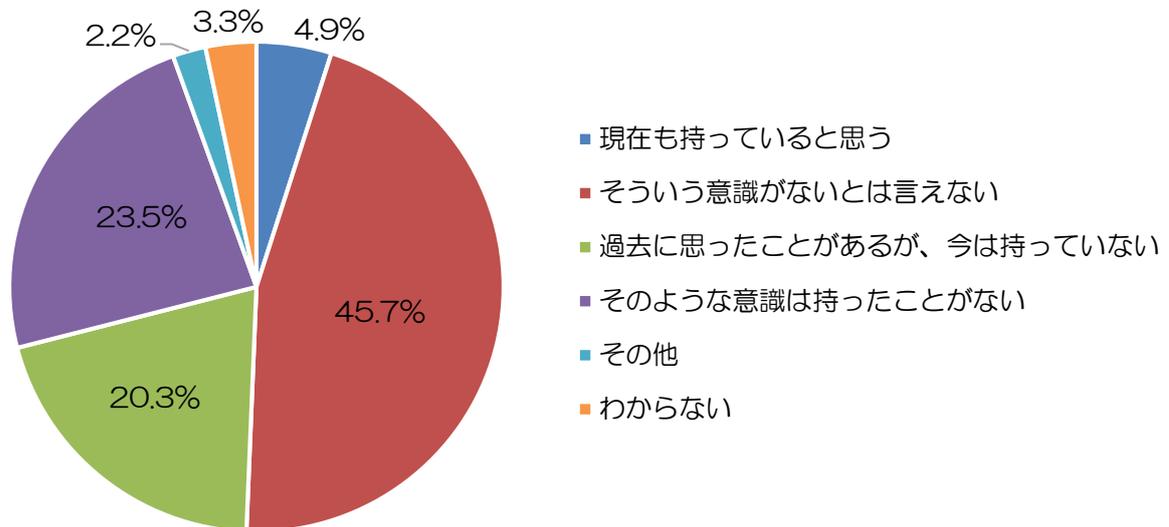


	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
家庭	167	2	8	33	49	38	24	13
地域	136	1	7	33	29	26	29	11
学校	237	3	37	82	64	32	15	4
職場	263		14	61	72	63	45	8
テレビ・新聞・雑誌	429	1	23	84	103	93	87	38
インターネット	202		11	54	61	38	27	11
県や市町のパンフレット やホームページなど	114		4	17	16	25	30	22
その他	29	1		6	4	10	5	3
わからない	13		2	2	4	3	1	1
学んだり聞いたりした ことはない	43			7	11	11	11	3

Q3 障がい者に対する偏見・差別について

あなたは、障がい者に対して差別や偏見の意識を持ったことがありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

最も多い回答は「そういう意識がないとは言えない」で45.7%、次いで「そのような意識は持ったことがない」が23.5%という結果でした。

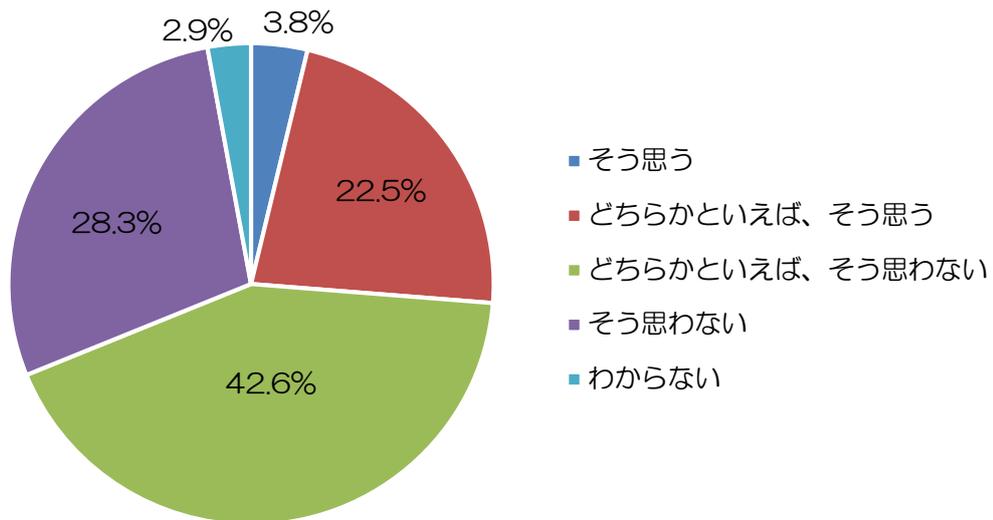


	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
現在も持っていると思う	34		6	11	9	3	4	1
そういう意識がないとは言えない	317	1	20	72	90	70	53	11
過去に思ったことがあるが、今は持っていない	141	2	9	23	31	29	32	15
そのような意識は持ったことがない	163		6	30	32	43	29	23
その他	15			3	3	3	5	1
わからない	23		1	4	13	4	1	

Q4 障がい者への差別・偏見のない社会について

あなたは、障がい者に対する差別や偏見のない社会になっていると思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

最も多い回答は「どちらかといえば、そう思わない」で42.6%、次いで「そう思わない」が28.3%という結果でした。

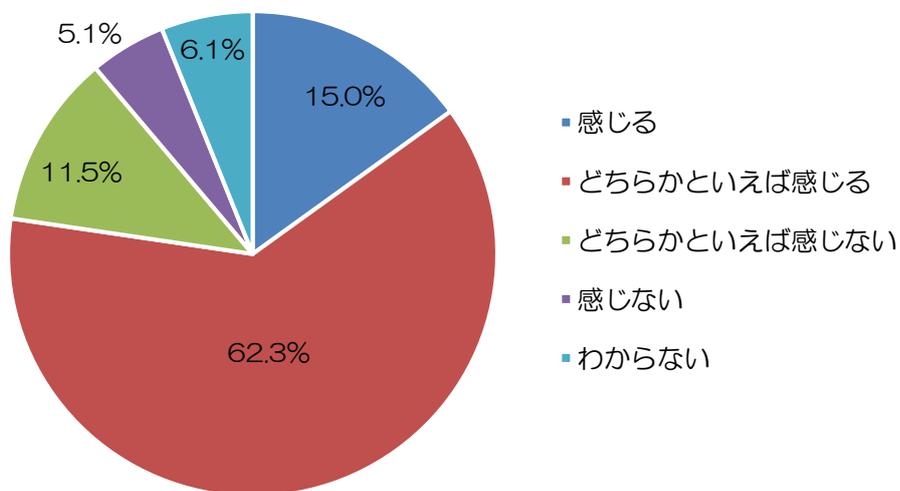


	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
そう思う	26		1	5	4	7	6	3
どちらかといえば、 そう思う	156	1	10	23	35	37	32	18
どちらかといえば、 そう思わない	295	2	10	68	72	68	53	22
そう思わない	196		18	43	60	37	31	7
わからない	20		3	4	7	3	2	1

Q5 障がい者に対する理解について

あなたは、以前に比べて障がい者に対する理解が進んでいると感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

最も多い回答は「どちらかといえば感じる」で62.3%、次いで「感じる」が15.0%という結果でした。

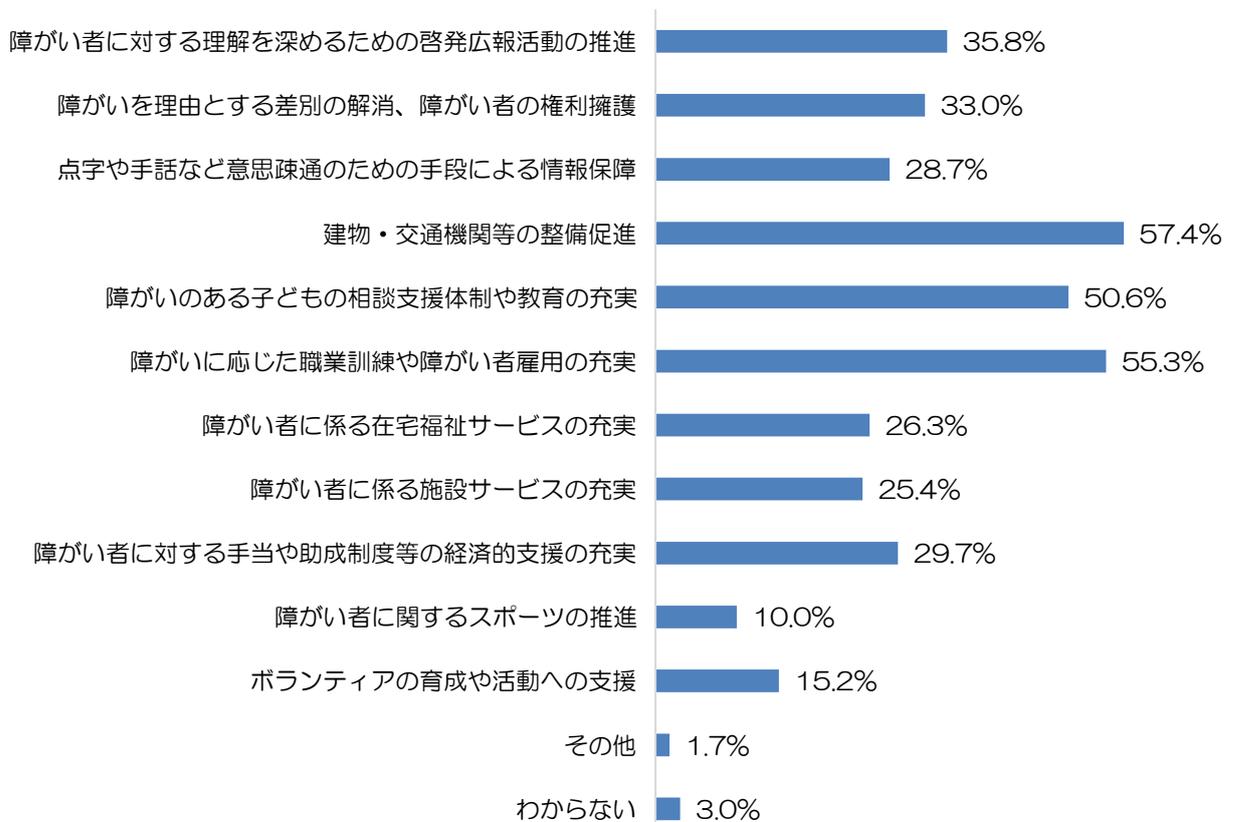


	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
感じる	104	1	7	19	27	19	22	9
どちらかといえば感じる	432	2	24	87	108	105	72	34
どちらかといえば感じない	80		5	18	20	15	17	5
感じない	35		2	9	10	3	9	2
わからない	42		4	10	13	10	4	1

Q6 障がい者の施策推進について

障がい者に関する県の施策のうち、あなたが最も力を入れる必要があると思う分野は何ですか。あてはまるものを5つまで選んでください。

「建物・交通機関の整備促進」(398)、「障がいに応じた職業訓練や障がい者雇用の充実」(383)、「障がいのある子どもの相談・支援体制や教育の充実」(351)が上位を占めました。



	全体	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代 以上
障がい者に対する理解を深めるための啓発広報活動の推進	248	2	12	54	53	56	42	29
障がいを理由とする差別の解消、障がい者の権利擁護	229		14	59	47	40	52	17
点字や手話など意思疎通のための手段による情報保障	199	2	13	42	58	41	29	14
建物・交通機関等の整備促進	398	2	24	65	94	92	90	31
障がいのある子どもの相談支援体制や教育の充実	351	1	24	81	92	65	63	25
障がいに応じた職業訓練や障がい者雇用の充実	383	1	20	69	93	90	79	31
障がい者に係る在宅福祉サービスの充実	182		8	25	43	47	43	16
障がい者に係る施設サービスの充実	176	1	8	27	35	50	40	15
障がい者に対する手当や助成制度等の経済的支援の充実	206		13	32	48	49	47	17
障がい者に関するスポーツの推進	69		6	17	16	16	9	5
ボランティアの育成や活動への支援	105		1	15	31	26	21	11
その他	12			2	4	3	2	1
わからない	21		2	4	10	3	1	1

● 「安全で安心な三重のまちづくり」についての回答結果（Q7～Q12）

環境生活部くらし・交通安全課

Q7 防犯・交通安全活動への参加について

あなたは、地域で行われている防犯・交通安全活動に参加されたことはありますか。

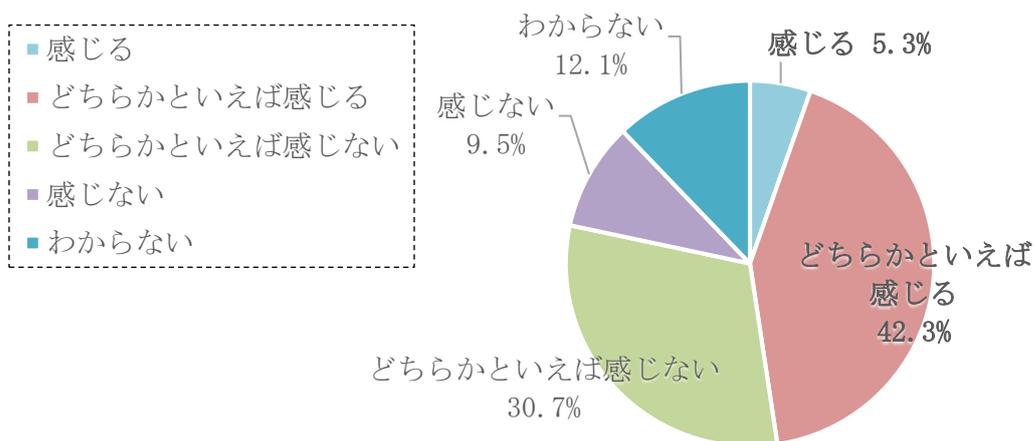
参加したことが「ある」と回答した人の割合は31.9%、「ない」と回答した人の割合は68.1%という結果でした。



Q8 子どもの犯罪被害について

あなたは、地域の中で、「子ども」が犯罪被害から守られていると感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

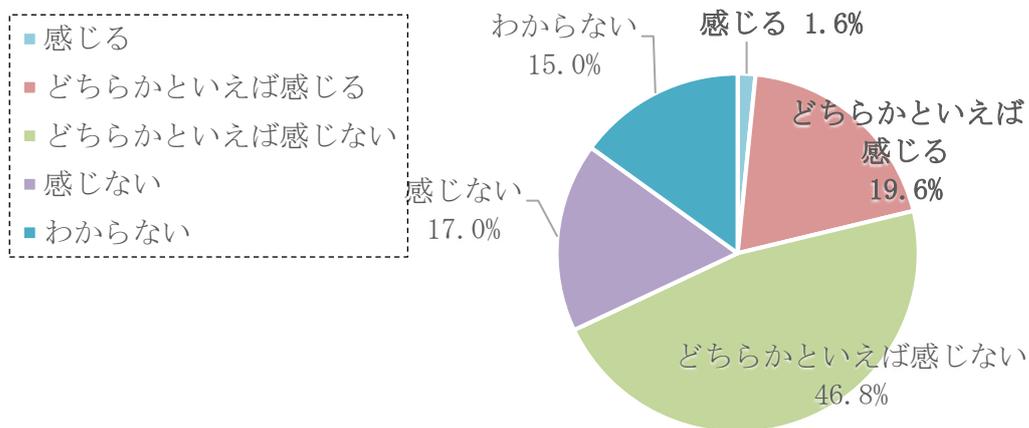
『感じる』（「感じる」又は「どちらかといえば感じる」）と回答した人の割合が47.6%という結果でした。



Q9 女性の犯罪被害について

あなたは、地域の中で、「女性」が犯罪被害から守られていると感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

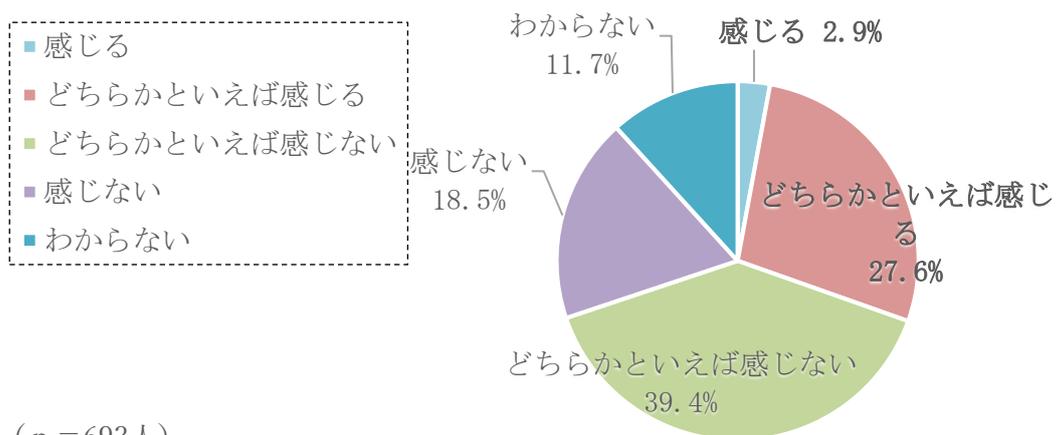
『感じる』（「感じる」又は「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合が21.2%という結果でした。



Q10 高齢者の犯罪被害について

あなたは、地域の中で、「高齢者」が犯罪被害から守られていると感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

『感じる』（「感じる」又は「どちらかといえば感じる」と回答した人の割合が30.5%という結果でした。

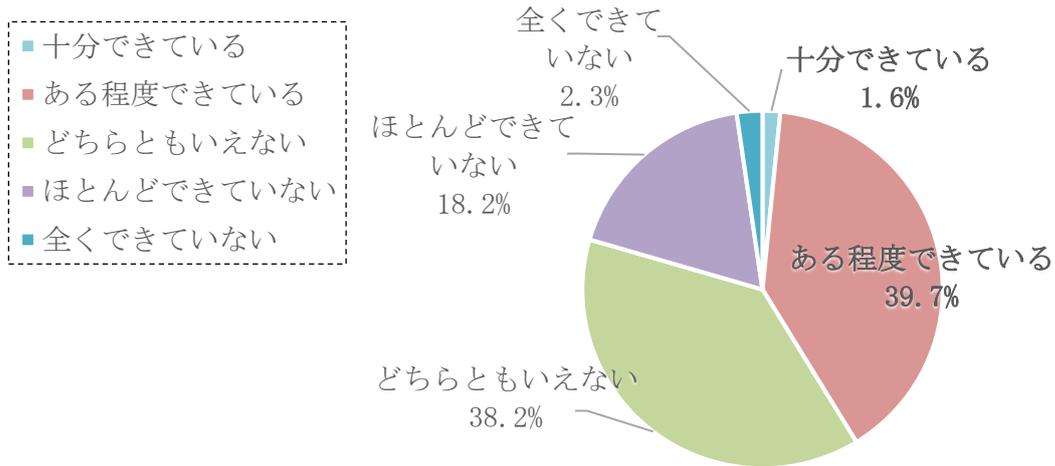


(n = 693人)

Q11 身近な犯罪への対策について

あなたは、自身や家族が、「近年、県内で多発する犯罪等」（空き巣、忍込み、自動車盗、車上ねらい、部品ねらい、自転車盗、特殊詐欺※）に遭わないような対策（日頃の備えや心掛け等）ができていますと感じますか。あてはまるものを1つ選んでください。

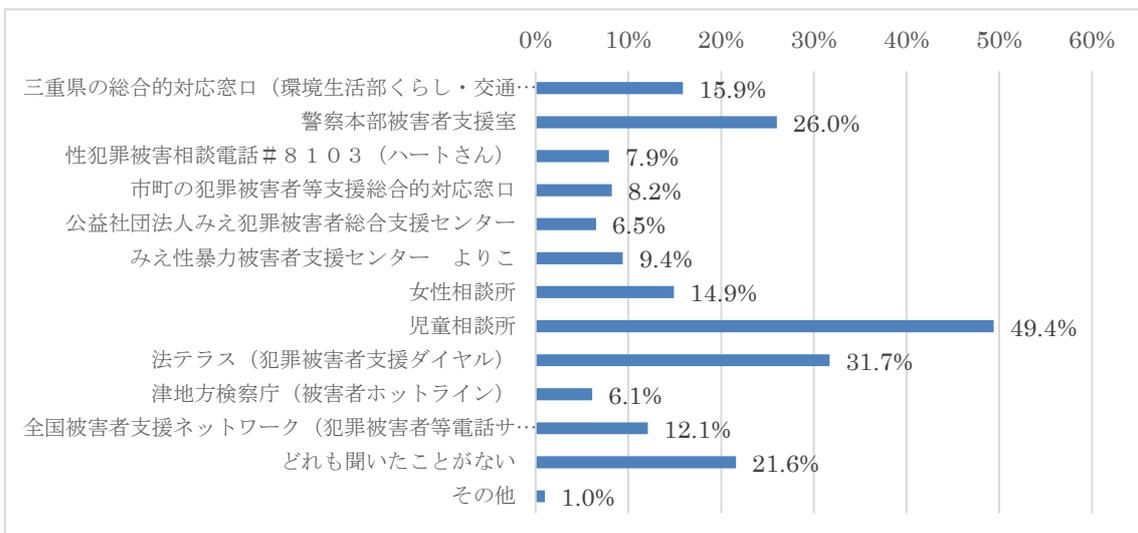
『できています』（「十分にできています」又は「ある程度できています」と回答した人の割合が41.3%という結果でした。



Q12 犯罪被害者等支援の相談窓口について

あなたが知っている犯罪被害者等支援の相談窓口はどれですか。あてはまるものすべて選んでください。

最も多い回答は、「児童相談所」（49.4%）で、次いで「法テラス（犯罪被害者支援ダイヤル）」（31.7%）、「警察本部被害者支援室」（26.1%）となっています。また、「どれも聞いたことがない」（21.6%）が、上記に次いで多い回答となっています。



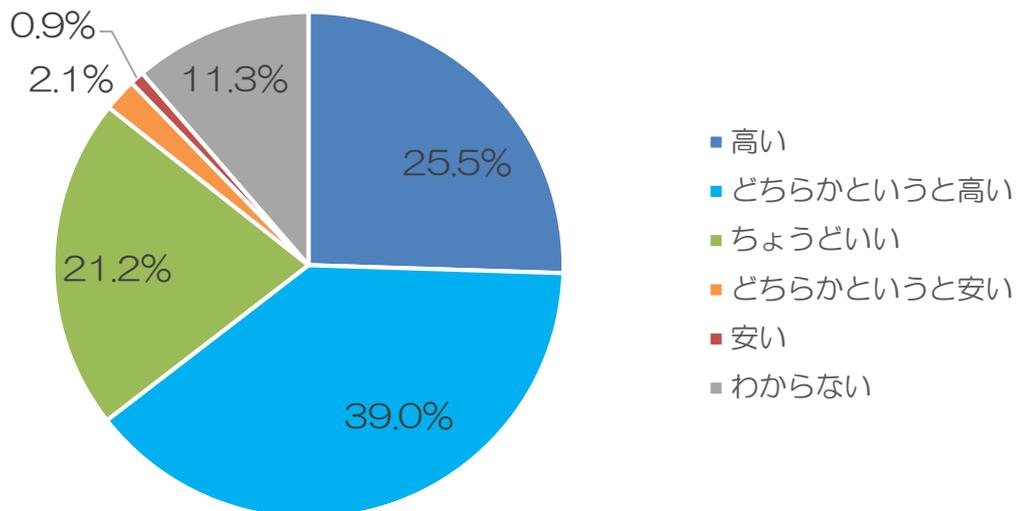
●「水道」についての回答結果（Q13～Q16）

環境生活部大気・水環境課

Q13 水道料金に対する意識について

ここからは、大気・水環境課からお聞きします。

あなたが支払っている水道料金についてどう思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

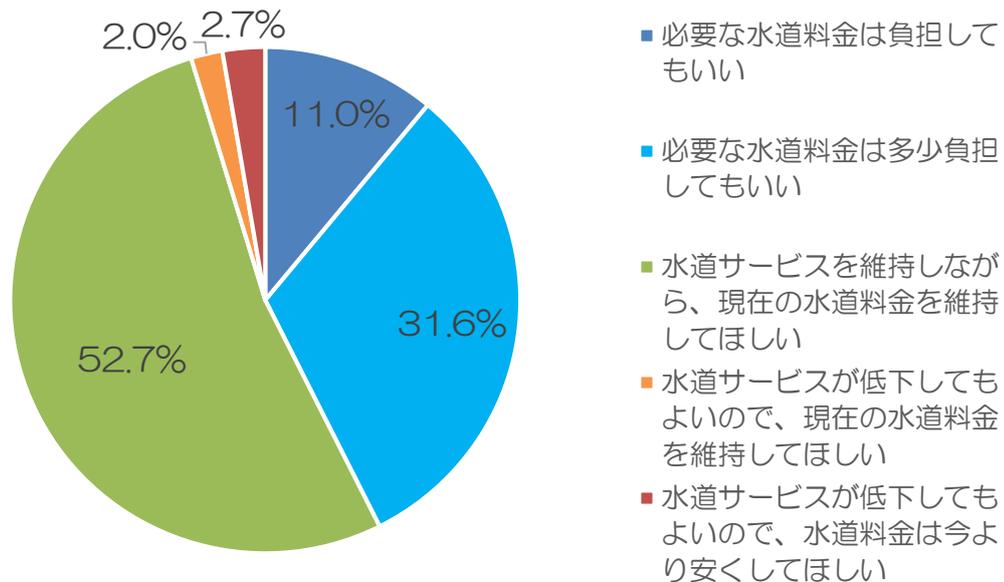


「どちらかという高い」と回答した人の割合が39.0%、次いで「高い」と回答した人の割合が25.5%という結果でした。

「高い」、「どちらかという高い」と回答した人の割合が、あわせて64.5%、「ちょうどいい」と回答した人の割合が21.2%、「安い」、「どちらかという安い」と回答した人の割合が3.0%となり、水道料金について「高い」と感じる人が多いという結果でした。

Q14 今後の水道料金の値上げに対する考え方について

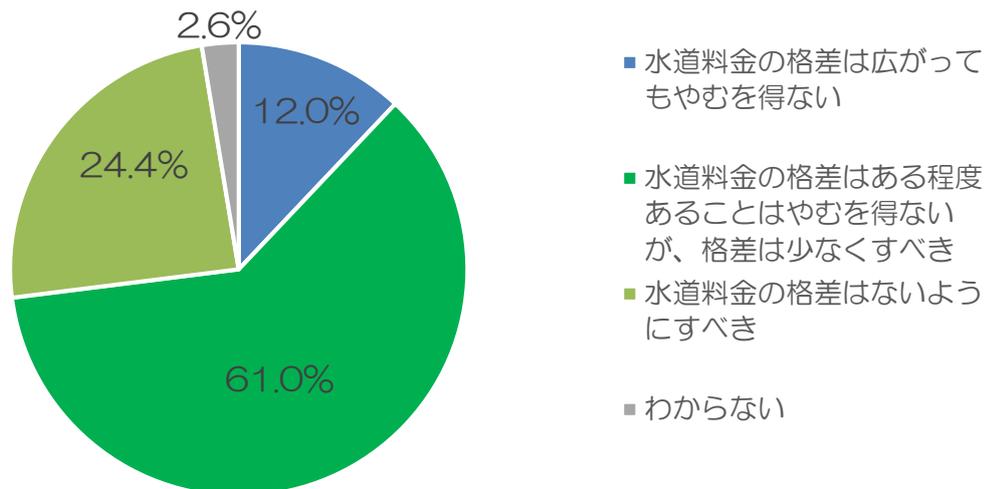
水道料金の収入は、人口が減少することで減少していくため、今の水道施設を維持していくためには、これから水道料金を上げていく必要があります。水道サービス（例えば、断水が発生しない）を今までどおり維持するための値上げについて、あなたの考えにもっともあてはまるものを1つ選んでください。



「水道サービスを維持しながら、現在の料金を維持してほしい」と回答した人の割合が52.7%で、今までどおりの水道サービス及び水道料金を望まれる人が最も多いという結果でした。

また、「必要な水道料金は負担してもいい」、「必要な水道料金は多少負担してもいい」のような水道サービスを維持するために水道料金を負担してもいいと回答した人の割合があわせて42.6%だったのに対し、「水道サービスが低下してもよいので、現在の水道料金を維持してほしい」、「水道サービスが低下してもよいので、水道料金は今より安くしてほしい」のような、水道料金を維持又は安くするために水道サービスを低下してもいいと回答した人の割合があわせて4.7%であり、現状の水道サービスを維持してほしいと望んでいる人が多く、水道サービスを維持するためには、必要な水道料金を負担してもやむを得ないと考えている人が多いという結果でした。

Q15 今後の水道料金の格差に対する考え方について
水道事業は、市町が経営しているため、水道料金は市町ごとに異なっています。最も高い市町の1ヶ月の水道料金は、最も安い市町の水道料金に比べて約3.2倍となっており、今後は人口の減少にともない水道料金の格差は広がっていくことが予想されています。
このことについて、あなたの考えにもっともあてはまるものを1つ選んでください。

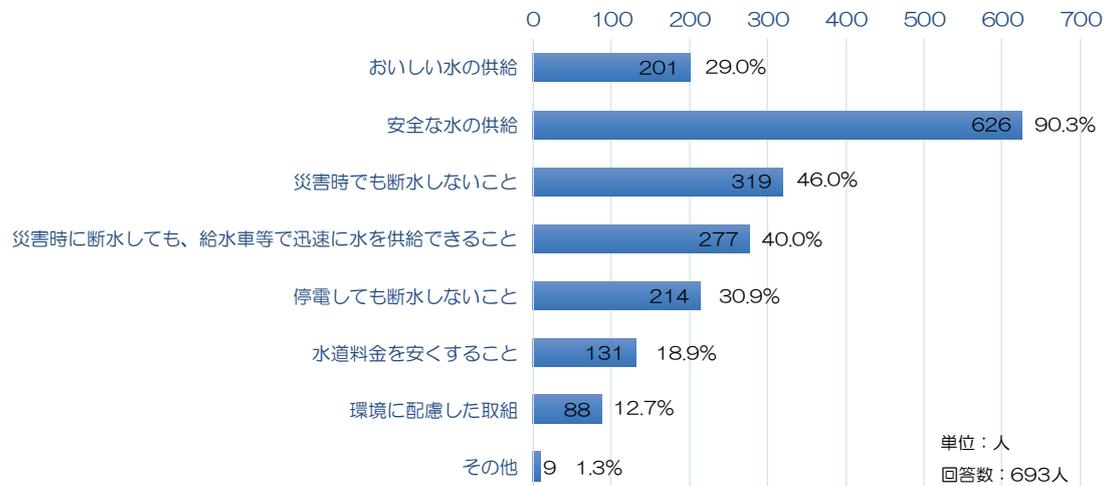


「水道料金の格差はある程度あることはやむを得ないが、格差は少なくすべき」と回答した人の割合は、61.0%で、最も多いという結果でした。

また、「水道料金の格差はある程度あることはやむを得ないが、格差は少なくすべき」、「水道料金の格差はないようにすべき」と回答した人の割合をあわせて85.4%で、水道料金の格差が広がることを望まない人が多いという結果でした。

Q16 水道に望むことについて

あなたがお住まいの地域の水道について、望むことは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



「安全な水の供給」を選択した人が、回答いただいた人（693人）の90.3%で、次いで、「災害時でも断水しないこと」が46.0%、「災害時に断水しても、給水車等で迅速に水を供給できること」が40.0%、「停電しても断水しないこと」が30.9%、「水道料金を安くすること」が18.9%、「環境に配慮した取組」が12.7%という結果でした。

水道について、ほとんどの人が安全な水の供給を望んでおり、次いで災害時や停電時においても水が供給されることを望んでいる人が多いという結果でした。